

H.I. 社会システム学科 3 年次

I. 留学レポート

① 協定留学を目指した理由

私は大学 2 年生の夏頃から留学を考え始めました。新型コロナウイルス感染症が蔓延している中で大学生活が思うように進まず、アルバイトと授業、課題を繰り返す日々の中、自分の行動次第で多様な事柄が体験できる 4 年間の大学生活を何も行動せずに終了することに大きな不安を感じていました。私は大学生のうちに海外に滞在し、広い世界に触れ、人と出会い、自分の視野を広げたいという思いがあったので、留学は魅力的な手段であると感じていました。台湾には一度旅行で行ったことがあり、それ以来、台湾の食や文化、そこに生活する人々に興味を持ち始め、また、第 2 言語でとっていた中国語をもっと深めたいという思いもあり、本学の協定留学で台湾に留学しようと決めました。

② 留学を目指してから出願までの語学習方法

留学を本格的に考え始めた時期が 2 年生の 9 月頃と遅かったこともあり、出願までの期間が短く、年間の試験回数が多い HSK を選びました。1 年生の時に第 2 言語で中国語を履修していたものの、忘れていたことも多く HSK3 級のテキストを用いて基礎から勉強し始めました。

③ 留学決定から出発までの準備期間

留学決定後、3 年生の春学期から中国語の選択授業をとり、国際課の中国語チャットルームをたくさん活用するなどして、中国語に触れる機会を増やしました。また、HSK の単語の聞き流しを通学時間でしていました。新型コロナウイルス感染症の影響で、交換留学生のビザが取得できるかどうか 7 月末まで分からず、出国ぎりぎりの査証申請となりました。申請から受け取りに 10 日程かかり、到着後の隔離もあったため授業開始日に間に合わず遅れて参加することになりました。その他、パスポートの作成や健康診断、履修科目の選択、留学先の大学に提出するレポートの作成などを行いました。

④ 現地到着後

空港に到着後、教育部の人と合流し、sim カードを買い、簡易検査キットをもらい、PCR 検査をしました。空港では防疫タクシーに乗るまで教育部の人が全て案内してくださり、とてもスムーズでした。1 週間の隔離があったため、空港からすぐにタクシーで隔離ホテルに向かいました。オリエンテーションは、渡航前にオンラインで受けました。大学到着後に行う手続きやキャンパスの説明、履修登録、サークル活動の紹介などがありました。ホテル滞在中は、オンラインで中国語や正規科目の授業を受けていました。

⑤ 語学研修期間

◆語学研修先の施設・環境について

私のクラスは大学の図書館の一室で授業をしていました。20 人程のクラスと人数は多かつ

たのですが、教室の広さもあり、冷房や暖房もきいていたのでとても過ごしやすかったです。私は毎朝 9 時から 12 時までの週に 15 時間開講されるクラスを選択しました。私のクラスでは、水曜日は不定期に午後に授業が開かれることがあり、私は午後にある正規科目の授業と時間帯が重なっていたので、その際は途中で抜けてアカデミックの授業を優先していました。このようにスケジュールに問題があった場合、事前に先生に報告し相談をすれば柔軟に対応してもらえます。

◆授業内容、課題、試験

授業は主にテキストに沿って進められました。単語やそれを使った例文づくり、文法、そのユニットのトピックに沿った会話文の音読等を行いました。一課ごとに単語テストとリスニングや読解を含めたまとめのテストが行われ、期末考査では口頭テストがありました。また、ユニットが変わるごとにワークブックの課題が出されました。学期が始まる前にテストでクラス分けがされます。授業が始まって最初の 1 週間のみ、クラスの変更が可能です。クラスのレベルや先生によって授業の進め方や内容はそれぞれ異なるので、この期間で異なるクラスを試してみるのも良いと思います。

⑥ 正規科目履修期間

◆大学の施設・環境について

大学内はとても広く自然豊かで気持ちが良いです。キャンパス内にはバスケットコートや陸上トラック、体育館には卓球やバドミントンのコートがあり運動できる環境が整っています。また、食堂は 3 つあり、昼はどこも学生たちが集まり混みあいます。

◆履修科目

・ Taiwan Folklore

台湾の文化や民族に興味があったためこの授業をとりました。授業では毎回異なる台湾文化のテーマを取り上げ、学外活動では実際に少数民族の集落に行きました。

・ Chinese and English for sustainable ocean

自然が創りだすものに興味があり、受講しました。生態系やビジネスなどを絡めて海を持続可能な視点で考えるという授業でした。

・ English for tourism

各国の料理やその作り方を取り上げ、そこで出てきた英語での言い回しなどを学びました。

◆授業、レポート、定期試験

・ Taiwan Folklore

1 時間先生の話聴講し、残りの 1 時間はグループで振り分けられたトピックについて話し合っ発表するという形でした。留学生向けの授業で、全て英語で行われました。中間は期末の発表に向けてのアウトラインを作成するレポートがあり、期末はフィールドトリップを振り返るレポートが 2 つと 2 人で行うプレゼンテーションがありました。

・ Chinese and English for sustainable ocean

教授とディスカッションをしながら授業を進める形態でした。これも留学生向けの授業で、全て英語で行われました。グループプレゼンテーションが中間に 1 回と期末に 2 回ありました。プレゼンテーションは全て異なるテーマで行われました。

・ **English for tourism**

毎回授業終わりにオンラインの小テストがあり、中間試験はその各回の小テストの成績が反映されました。期末試験は自国の宿泊施設やレストラン、食べ物のいずれかを紹介するという内容でした。先生はほとんど中国語で授業をします。分からなかったことや気になることを質問すれば丁寧に真摯に答えてくれ、とても優しい先生でした。

⑦ **クラブ、課外活動、ボランティア活動**

登山サークルと写真サークル、ダンスサークルの見学にいきました。どこのクラブも歓迎してくれました。登山サークルは本格的な山に登るということで、経験者であることと本格的な装備を持っていることが入部条件でした。私は登山初心者で装備もなかったので入りませんでしたが、普段のトレーニングや講義は参加可能だったのでその際に何度か参加していました。写真サークルは、カメラの操作の仕方を講義形式で学んだり外で実際に撮影してみたりという興味深い内容でした。しかしカメラの技術的な知識を全て中国語で教わるので、知識が全くなく中国語の聞き取り能力もあまりなかった私にとって授業についていくのが厳しく諦めました。しかし毎週学校外から先生が来て 2 時間程みっちりカメラや写真について教えてくれるという貴重な機会だったので、興味があれば 1 回行ってみることをおすすめします。

私は最終的にダンスサークルに入り、12 月上旬に大学内で行われる発表会に向けて練習しました。10 月や 11 月前半は週に 2 回のジャンルの練習と週に 1 回、学外から来る先生のレッスンがありました。11 月後半と 12 月は週に 4.5 日と練習回数も増えてきました。練習は想像以上にハードでしたが、その分みんなで踊り終えた時の達成感も大きく本当にやって良かったと思いました。最初は言語の壁の心配がありましたが、チームメイトはみんな優しく、分からないことや困ったことがあれば必ず助けてくれました。ここでの仲間と過ごした日々は宝物です。また、普段から台湾人の使用する中国語に沢山触れることが出来、自分自身の中国語の成長にも繋がったと思います。

ボランティア活動では、日本語学科の方に誘ってもらい、子どもと遊ぶボランティアに参加しました。台湾人の子どもと触れ合う機会はここ以外にはなかったので、とても良い経験になりました。

⑧ **現地での住まいについて**

基本的に留学生は寮生活で、大学から歩いて 10 分程離れた寮か、大学内にある希嘉という女子寮に振り分けられました。私は大学内の希嘉寮に入り、台湾人 2 人と日本人 2 人の 4 人部屋でした。シャワー、トイレ、洗面所は同じフロアの人たちと共用でした。冷房はありますが、暖房はないので冬になると冷え込みます。自炊できるような場所はなく、基本

外食ですが、希嘉寮の前には食堂やコンビニがあり、大学の近くには飲食店も沢山あるので食事に困ることはありませんでした。

⑨ 長期休暇の過ごし方

長期の休みはありませんでした。

⑩ 留学期間中の就職活動の取り組み

留学中は特にしていませんでした。その代わりに、留学期間中にしかできないことをどれだけ行動に移せるかを心がけ、勉強や遊びを優先していました。帰国後から本格的に就活を始めました。

Ⅱ. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

中国語のクラスは土日を除いて毎日 3 時間ありましたが、飽きることなくとても楽しく居心地よく中国語を学ぶことができました。日本人以外にベトナム人やタイ人、フィリピン人もおり、色んな国の文化や言語に触れられてとても面白かったです。クラスメートと先生と学校が主催するイベントに参加したり、遊園地に行ったり、ご飯を食べに行ったりしました。また、花蓮県（ホワリン県）での 1 人旅も印象に残っています。初めての 1 人旅で不安もありましたが、1 人でいる分、人の優しさを沢山感じることができ、とても思い出深いです。その日はクリスマスイブだったので、泊まったホステルのオーナーさんとゲストのみなでケーキを食べながらお喋りをしたり、そこで出会ったカナダ人の子とご飯を食べに行ったりして、とても楽しかったです。出会う人みんなが親切で、更に台湾が好きになりました。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

留学生活終わりがけの 12 月末に新型コロナウイルス感染症にかかり、最後の週の中国語の授業に出られず、予定していた年末の旅行も行くことができなかったのが辛かったです。坂の上にある隔離場所の寮への移動も、体調が悪い中、1 週間分の荷物と布団を運ぶのがとても大変でした。この療養期間を通して、健康であることの有難みを身に染みて感じました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

横断歩道を渡る時に歩行者優先ではなかったり、歩道にバイクが走っていたりと、歩いている時は車やバイクに注意する必要がありました。バスは予定時刻通りに来ないことも多々ありますが、本数が多いので困ることはありませんでした。1 度、高速バスを利用する時に 2 時間程待たされたことは驚きました。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

良かった点は、留学生 3～4 人にひとり日本語学科のチューターが就くという制度があり、そのチューターに生活面で色々助けてもらったり、中国語を教えてもらえたりしたことです。ご飯や旅行にも一緒に行ったりし、より留学生活が濃いものとなりました。また、国際課が企画するイベントが多く、行事ごとに留学生が集まってゲームをするなど留学生同士で交流できる機会がたくさんあり良かったです。

日本語学科の人たちはみんな日本語のレベルが高いので、つい日本語で話してしまうこともあり、中国語で喋ることを意識する必要がありました。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

オンライン授業やオンラインでの課題提出もあったので、パソコンは持参してよかったです。また、暖房がないため屋内で着られる薄いダウンベストが役立ちました。他に、部屋で履く外用のスリッパ、虫除け、薄手の長袖（暑い時期の部屋での虫除け対策におすすめ）、コップ、USB が役立ちました。日用品はスーパーやドラッグストアで買うことができ、日本の物も日本で買うより高いですが、手に入れます。マスクは売っていますが、ほとんどカラーマスクしか売っていないので、色やサイズにこだわりがあれば持参することをお勧めします。

③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

留学初期と比べ、中国語で会話することに抵抗がなくなったように感じます。授業で話す先生の中国語がだんだん理解できるようになるなど、リスニング力も初期と比べ上がっていることを実感しました。また、人見知りの性格でしたが、人と関わることにワクワク感じるようになり、以前より積極的になれた気がします。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

留学を通して、バックグラウンドや価値観が異なる様々な人と出会い、自分を見直す機会を得ることができました。そして、こうでありたいというこれからの自分の在り方のようなものを見つけることができました。チャレンジした先には、必ず今とは異なる変化があると思うので、それを楽しみにこれからの留学生活を乗り越えて行ってほしいです。

Ⅳ. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

卒業後は就職を考えています。まだ詳しいことは決まっていますが、海外と繋がる仕事に就きたいです。また、これからは仕事、旅行、勉強など何かしらの形を通して日本にとどまらず世界を見続けられる人でありたいです。

V. 写真



中国語のクラスメートのみんなで授業終わりに遊園地に行きました。大学から車で 30 分ほどの距離にあり、午後からでも十分満喫することができました。



12 月に学内で行われたダンスサークルの発表会で仲間の人々と撮った写真です。年齢、性別関係なく仲が良いこの空間がとても居心地が良かったです。沢山練習したおかげで本番思いっきり楽しむことができました。



台南市に旅行に行った時の写真です。台湾人の友達が市内を案内してくれました。安平地区の漁光島(ユグアン島)で見た夕日がとても綺麗でした。



Taiwan Folklore の授業で少数民族の集落の小学校に行きました。ここでは小学生とサッカーをしたり、簡単な手遊びのゲームをしたりと様々な形で交流をすることができました。